

終息見えぬ連夜の発信

コロナ禍を
歩く

ルポ おおいた

見に臨んだ。

ウイルスの有無を調べるPCR検査（遺伝子検査）は県衛生環境研究センター（大分市高江西）と同市保健所（荷揚町）の2カ所で行っている。

検体の受け入れは1日最大132件。当日の全判定結果が分かるのは午後7時ごろになることが多い。その後の遅い時間帯に会見を開くのは「県民に正しい情報を早く伝えるため」（県広報広聴課）だ。

災害リスク心理学が専門の広瀬弘志・東京女子大名誉教授（7）は必要性を強調する。「情報発信は安全で安心な生活に欠かせない。感染確認者数の変化を知ることが住民の行動や予防対策につながる」

判断問われる匿名

感染者は原則匿名発表なのに対し、施設や店舗など不特定多数の出入りがある場所は名称を公表するケースもある。「感染が広がる可能性があるか」「そこに立ち寄った人たちに知らせる必要があるか」。判断が問われる。

匿名は事実と異なる臆測

午後7時に結果

県内で新たな感染者が確認されるたび、県は記者会見を設けて状況を公表している。同日までに計33回、緊急的に開いた。

1例目を確認したのは3月3日だった。広瀬勝貞知事が午後1時半に一報を明かし、同2時半から臨時会

「偏見防ぐ正確情報を」 県緊急会見33回

大分県内のPCR 検査実施数



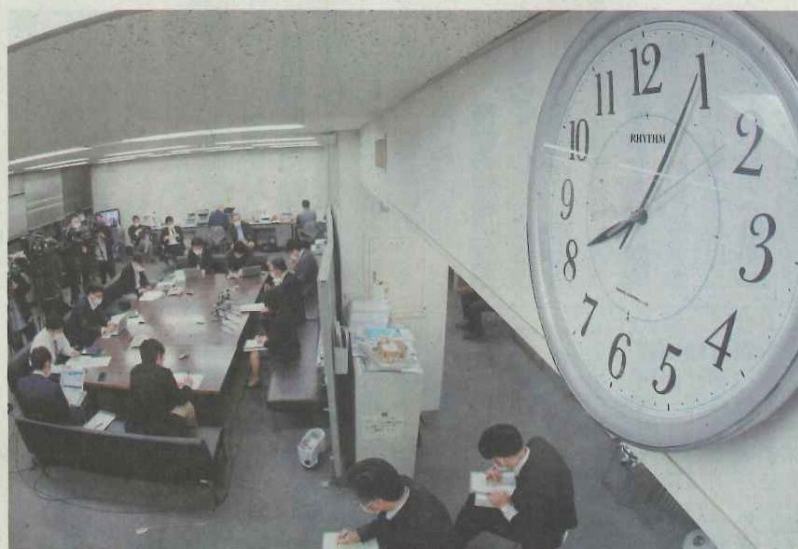
を招くケースもある。一方、実名報道で過剰な非難にさらされる恐れもある。10日の会見で藤内課長は「補足説明をさせていたのだきたい」と切り出し、1週間前に公表した感染者について改めて説明した。

「数字が独り歩き」
14日の会見は約30分で終わった。間もなく、県のコロナウイルス相談窓口の電話が鳴り始めた。

「感染者は増えるのか」「私も感染しているかもしれない」。受話器の向こうに動揺が広がっている。会見を仕切る渡辺修武・広報広聴課長（53）は考えている。「数字が独り歩きして過度な不安を招かないよう、症状や行動歴などを詳しく知らせたい」

深夜に及ぶ業務に、まだ終わりは見えない。

（大塩信、池田美香）
＝随時掲載＝



新型コロナウイルス感染者の情報を県民に早く伝えるため、連日連夜の会見が続く＝14日、県庁、撮影・鎌手美和